

① 題：「神の死」 (30 分)

説教者 : 浦島靖成
聖書朗読 : ルカによる福音書 2 : 34,35
瞑想の言葉 : E・G・ホワイト 『各時代の希望』 下巻 140 頁

「キリストによる以外には、われわれの魂と神とを結びつけるものはない。……キリストの死より以下のものでは、主の愛をわれわれのために効力のあるものとすることができない。われわれが主の再臨を喜びをもって期待できるのは、キリストが死んでくださったからにはほかならない。キリストの犠牲はわれわれの望みの中心である。この上に、われわれの信仰をすえなければならない。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 112 番
終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 294 番

② 題：「柔和な人々の幸い」 (32 分)

説教者 : 藤田昌孝
聖書朗読 : マタイによる福音書 5 : 5
瞑想の言葉 : E・G・ホワイト 『祝福の山』 17 頁

「人間の本性は、たえず自己を表現しようと戦い、競争している。しかしキリストに学ぶ者は、自己、誇り、至上権を愛する心がなくなり、心の中はおだやかになる。自我は聖霊の指導に服従する」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 108 番
終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 324 番

③ 題：「ヤコブの梯子とバベルの塔」 (26 分)

説教者 : 稲田 豊
聖書朗読 : 創世記 28 : 13~15 (口語訳)
瞑想の言葉 : E・G・ホワイト 『祝福の山』 145 頁

「自分の行いによって救いを得ようとする努力は、必然的に、罪に対する防壁として、人間的なきびしい要求を積み重ねるように、人々にさせるのである。自分たちが律法を守れないのを知って、彼らは、自分自身のさまざまな規則や規定を作り出して、自分を無理にそれに従わせようとするのである。このようなことはみな、人の心を神から転じて自己へ向けるのである。神の愛は心から消え去り、それとともに隣人に対する愛も消えうせてしまう。人間の作り出した規律は、おびただしい要求を伴うもので、その規律の支持者に、定められた人間的標準に達しないすべての人を、さばくようにさせるのである。自分本位の狭い批判の空気は、けだかく寛大な感情を抑えつけ、人々を自己中心的な裁判官や心の小さなスパイにしてしまう。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 344 番
終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 314 番

◆お知らせ

アドベンチストメディアセンターホームページ (<http://www.adventistmedia.jp/video/worship/>) に礼拝プログラムのファイルを公開しております。週報の作成などご利用ください。